

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 10 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901894		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームあけぼのⅡ		
所在地	〒070-0062 旭川市曙2条6丁目1番1号 (電 話) 0 1 6 6 - 2 1 - 3 5 1 3		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14番地の9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成21年10月 5日	評価確定日	平成21年11月18日

【情報提供票より】 (21年8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤16人 非常勤2人 常勤換算10.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	有 (円)	☒ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 300 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護 1	5	要介護 2	2		
要介護 3	2	要介護 4	7		
要介護 5	2	要支援 2	0		
年齢	平均 84.2 歳	最低 57 歳	最高	97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くにもと病院 忠和クリニック メイプル病院 ほのぼの通り歯科				
---------	--------------------------------	--	--	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くから開けた閑静な住宅街で、本部健康会が一区画離れたところにあり、あけぼのⅣやヘルパーステーションも指呼の間にあり、相互連携が可能な条件の整った事業所である。男性の職員も多く、介護度の高い人や男性の利用者を苦もなく受け入れている事業所である。周囲が住宅街で、窓から見える景色で季節を感じる風景ではないので、外出行事で自然と触れ合う機会を持っている。家族からの信頼も高く、職員の資質も一定水準以上で、個々の要望に穏やかに対応している。建物の構造や機能については、炊事調理室が壁で仕切られ、食堂広場が見通せず、風呂トイレが死角になるところもあり、夜間の見守りと気配りを期待する。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4) 地域密着型の事業所として、基本的な取り組みを全員が理解しているが、それをどのように具体化するのが課題といえる。理念に地域との関係について明文化したが、「外出で、挨拶をする」で地域とのふれあいが深まることにはならず、多くのプロセスに取り組むことを望む。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 外部評価を全員で受け止めている。カンファレンスで目標を設定し、どのように対応するか協議している。開設から5年もたつと、事業所の運営に独自の方針が育ってきている。外部評価を受けながら、振り返る機会でもあり、常にフォローアップに努め、高いケアを目指している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6) 会議議事録に町内会長の意見が載せられている。提起された意見要望をこのように残し、近況報告の内容についても記録として残すように努めてほしい。不参加家族の報告に推進会議の経過を同封することで、意見の交換が出来、さらに家族会を組織し、参加者が増えるように配慮し、地域の婦人部長や福祉部長も参加されることを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8) 毎月利用者の近況についてお便りを出して、コミュニケーションが密に取られている。家族の訪問時にも、意見・苦情・提案について傾聴し、近況やヒヤリハット、金銭の出納についても丁寧に報告している。家族からの言葉を推進会議やカンファレンスでも取り上げ、その後の経過についても関係者の皆さんが共有することを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 事業所の多機能性をどのように発揮するのが課題になる。地域の実情について調査し、熟知することで、地域に開かれたグループホームのあり方を地域の皆さんに知ってもらい、そこから真の協働が始まる。この地域の福祉の相談窓口があけぼのグループホームであり、町内の皆さんに存在感を示すよう期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との一体化を念頭に置き、新しい理念を掲げた。地道な取り組みを協議し、その実現のプロセスを明らかにするのが、今年の課題になる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	外出し、町内の触れ合う人に挨拶をする。毎日の散歩や買い物での町内の人との接触の際に自然に挨拶するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入したが、どのような行事があるのかまだ把握していない。運営推進会議に町内会長の参加があり、形が整いつつある。	○	高齢化が進む地区での交流については、難しい課題がある。健康会を含めて、今後の取組みに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員が意見や考えを述べ、管理者がまとめ、再度確認を取り大約としてまとめている。外部評価の結果については、ミーティングで目標計画を作成し、達成するためのプロセスと経過について共有している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長の参加があり、意見も述べられているが、支援センターや民生委員の参加はこれからの課題になっている。議事録は、報告の題だけでなく、その内容についても記して、家族へ報告するよう期待する。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて窓口を訪問するが、市からの情報の発信が殆どなかった。今年市の監査が行われたが、サービス向上のアドバイスには及ばなかった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回お便りで、近況、金銭出納のお知らせをしている。身体状況の急変は電話で知らせ、来所時には直接近況報告をしている。運営推進会議の議事録に職員の異動にも触れて、内容を充実し、配布をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に気楽に話し合える雰囲気作りに努めている。意見・提案・相談については、誠意を持って受け止め、その対応について、経過・結果の報告がわずかながら滞っているものもあり、反省している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の余裕期間を1ヶ月という事業所の取り決めについては、全職員が遵守している。その間に利用者の動揺を和らげるように全員で取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4事業所で教育委員会を設け、新人の受け入れ時の研修を行い、独自の社員評価のラダー方式で、一段一段歩む研修の受講機会を作っている。管理者が福祉や介護の先輩となって職場の教師を自覚しながら、自己研鑽に励める環境を作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や講座の中で、他の事業所の職員との情報交換の機会がある。これからは、人的な相互交流で、他の取り組みについて体験する機会を設けるよう期待する。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは現場での体験を薦めている。環境や職員の接触態度、他の利用者の行動や食事・入浴など、この事業所での暮らしに馴染めるかが選択の要素なので、本人の納得が得られるよう十分な対応を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今では「出来ない」事でも、かつては簡単に出来ていた機能の回復と新しい方法を二人で考えるような関係になっている。筆談でやり取りしながら、コミュニケーションを取っている職員がいた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これからは無理をしない、いつまでも元気で暮らそうと、語りかけている。喫煙者は、事務所で吸うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントで、計画作成担当者が本人・家族や友人・知人まで輪を広げて、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	5ヶ月ごとの見直しをしているが、変化が現れた都度、医師や看護師のアドバイスを受け適切な見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、外食や買い物、希望の場所への付き添いなど支援をしている。かかりつけ医への送迎も個別対応している。事業所の多機能性とは、このような人的な支援だけでなく、健康会も含めた総合的な多機能を探すことを意味している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望を受けて、事業所の近くの提携医院に通院している。定期的な医師の訪問や週に1度の訪問看護で、身体状況は常に把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、入所時に本人・家族の希望を聞き取っている。尊厳死や臓器提供等の確認も早い時期に話し合いをし、希望の有無の確認をし、その人に相応しい終末を迎えるよう職員と方針を共有することはまだ出来ていない。	○	左記のことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	初級の研修で最初に取り上げられている課題で、日常の支援での態度・言葉等の禁句については、職員同士でその都度指摘し、質の向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴回数や時間、食事の所要時間等本人の希望や機能に任せている。部屋で昼寝をする人、散歩に出かける人、ゲームを楽しむ人など多様な過ごし方をしている。常に見守りを怠らない様子が見られた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材・献立は外部に依頼し、配達された材料の点検は男性の利用者が進んで行っている。厨房は狭く、利用者が入って調理をする余裕がない。	○	味付けの特異な利用者と共に、楽しい食事の時間を過ごされることを期待する
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴が習慣になっているが、暑かった、汗をかいた、寝る前に入りたいという希望に込めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	喫煙の自由、飲酒の自由。自室での食事。一人一人の楽しみや気晴らしや趣味・娯楽は異なり、全員そろって楽しむとなると、職員だけの対応は難しい。外部の力を借りる必要がある。	○	一人一人の楽しみや気晴らし、趣味・娯楽の支援については、職員が対応することは難しい。地域の元気なお年寄りの力をお願いするなどの工夫を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物の支援をしている。	○	歩ける人には外でのウォーキングで四季の移り変わりを堪能してもらい、外出の見守りも、町内のボランティアなどの支援を得ることを期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けていない。玄関に出る引き戸が開くとそれなりの音楽が流れるようになっている。外に出る人もほぼ決まっているので、見守りで気配を感じ、フォローしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年2回避難訓練をしている。夜間の避難訓練にも取り組んでいる。町内との連携が出来ていないが、町内が主催で消火訓練を企画し、その場所を提供することで、近所の人の協力が得られる。	○	玄関のほかにも避難口を確保することを期待する。スプリンクラーの設置が義務化されましたが、2階も含めて安全な避難経路があると、地域の人の支援も可能に成る。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや食材の選定は外部の管理栄養士が、利用者の嗜好や身体状況を勘案しながら行っている。水分の摂取は、一人一人の記録を残し、不足しないように心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は十分で、車の音も聞こえない静かな住宅地である。紅葉の景色を広場に手作りで掲載し、季節の雰囲気をかもし工夫をしている。限られたスペースに、利用者の生活の写真が展示されて、暮らしぶりが分かる。	○	小さな仏壇や神棚を置くことも、自宅での生活感を持ち、穏やかな心地になり、落ち着いた雰囲気になる。工夫を期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望で布団を使用している人もいる。収納庫の配置もよく、小奇麗に使われている。		

※  は、重点項目。